

●手術せる鰻の角膜清澄す

前々號の本誌で、鰻の眼窩内に寄生する線蟲の事を報告する場合、其線蟲を取出す爲、腫脹せる局部の皮膚を切開した處が(二月二十七日手術)、其後程なく、手術せる側の眼の角膜濁濁を來し、其症状は、該報文起草當時の四月中旬に至るも、猶消滅せざる旨を述べて置いたが、四月の末より、件の角膜は、次第に濁濁の度を減少し、五月初旬に入て益々恢復、中旬に及んで遂に全く清澄した。但し是等の觀察は、勿論、悉く肉眼的になされたものである。

問題の鰻は、五月二十六日に至り、突然タンクから姿を隠した儘、今猶行方が不明である。

(石井重美)

●鯨二題

(一)抹香鯨の潮吹孔は第二次的に前進せしものなり。

今の鯨類は殆ど凡て特徴として著しく後方に退却した潮吹孔―外鼻孔―を有する。唯例外として抹香鯨がある。この鯨では切り立つた岬角の様に高く突き出して居る吻部の前端に近く潮吹孔が位置して居る。然しこの位置は外部から見た位置に過ぎない。柔軟部を除いて頭骨として見た外鼻孔は全く他の鯨に於る如く著しく後方に退却して居る。

一體空気を呼吸する脊椎動物が水中生活を営む様にな

ると外鼻孔が後退するものである。故に外鼻孔の位置によつて水に對する緣故の深淺を卜する事が出来る。予は是に假に三階級を區別する。第一は外鼻孔が頭の前端に位置するもので、河馬及鰭脚類等水中生活者としての經驗がまだ淺いであらう動物に見る例である。第二は外鼻孔が頭の前方ではあるが前端よりは幾分後退して居るもので、化石の古い海牛類や同じく鯨類等に見る例である。第三は外鼻孔がすつと後方に退却して居るもので、今日の海牛類や同じく鯨類等最も永く深く水に馴染んだであらう動物に見る例である。斯かる階級は化石の爬虫類に於ても識別する事が出来る。

頭骨として見た抹香鯨の外鼻孔は何等異なつた事もなく第三階級に屬して居る。若しも外部から見た潮吹孔が第一次的に初めからあの位置にあつたものならば、頭骨として見た外鼻孔までが化石の古い鯨類の様に前方にあつて然るべきである。故に抹香鯨も他の今日の鯨類と等しく一旦は外部から見た潮吹孔までが頭骨として見た外鼻孔と同様に後退して居た事と信ずる。即ち外部から見た潮吹孔の今の位置は第二次的に前進したものでなくてはならぬ。

この第二次的の前進は切り立つた岬角の様に高く突き出して居る吻部の發育に伴つて居やう。あの形ならば吻部の低い他の鯨類の様に潮吹孔が後退して居ないでも澤山である。潮吹孔の第二次的前進といふ事から推せば、